

博士課程教育リーディングプログラム 平成28年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成24年度		
機関名	東京工業大学	全体責任者（学長）	三島 良直
類型	オールラウンド型	プログラム責任者	丸山 俊夫
整理番号	G01	プログラムコーディネーター	佐藤 勲
プログラム名称	グローバルリーダー教育院		

<プログラム進捗状況概要>

1. プログラムの目的・大学の改革構想

広く政財産官学界にわたりグローバル社会を牽引していくトップリーダー（グローバルリーダー）には、国・地域、人種、宗教等の違いを越えてものごとの本質を見抜き、解決すべき課題を抽出し、自らの専門領域の知識・能力だけではなく、他の領域に知見を有する他者の力を幅広く適切に活用して、課題解決のための方策を考案し、それを社会に合理的に説明した上で実行に移すことができる能力が必要である。このような能力を有する人材を養成するため、本事業では、以下の諸点に改革を行う。

- ・グローバルリーダーに向けた学生のキャリア意識の涵養：将来、自身が、様々な文化・分野が共存するグローバル社会を牽引していくトップリーダーになりたいという意欲を持った者のみを選抜し、実社会の現役リーダーとの接点を豊富に用意してキャリア意識の強化を図ると共に、それぞれの志向に合致した活躍の分野を考えさせ、それに合わせた能力の涵養の機会を提供する。
- ・グローバルリーダーたる能力の養成のための仕組み：「俯瞰力」「コミュニケーション力」「行動力」「創造性」といったいわゆる「人間力」の養成には、コースワークなどの知識の習得を目的とした従来の大学院教育とは異なる方法と仕組みが必要である。こうした能力を、それぞれの学生が描くキャリアパスに合わせて、テラーメードに涵養する仕組みを構築し、グローバルリーダーたる実践的能力を身につけさせる。
- ・文理の枠を越えた指導体制の構築と学生の切磋琢磨の環境の強化：グローバルリーダーには、理工学分野のリーダー以上に、文理の枠を越えた幅広い俯瞰力が求められる。こうした能力を養成するため、国内外の実社会のリーダーとの接点を拡充し、実社会の知見を踏まえた俯瞰力を養うと共に、一橋大学との連携によって、指導体制や学生が切磋琢磨する環境の多様性を強化する。
- ・専門能力の養成と両立しうる仕組みの構築と学生支援：理工学分野における知識・能力の獲得と人間力の養成という異なる方法による教育体系を両立させるため、修士・博士後期課程を連続した学修期間と位置付け、専門領域における論文研究と人間力涵養の修練とを、学生自身の時間管理の下で自由に組み合わせることができる仕組みを構築する。また、授業料免除、奨励金・研究費給付等によって経済的側面からも支援を行い、本事業での修練に集中させる。

2. プログラムの進捗状況

既に本学位プログラムに所属している第1期～第5期生に対して専門領域における論文研究と並行して道場教育・オフキャンパス教育を実施するとともに、第6期生を選抜し教育を開始した。また、修了年次に達した学生に対して修了審査を実施した。さらに、一橋大学大学院国際企業戦略研究科（ICS）との連携のもと、同大学大学院生を道場教育に参加させることで学生の多様性を増し切磋琢磨する環境を強化して、本学位プログラムの教育効果を高めるよう事業を実施した。すなわち、

- ① 本学位プログラムの導入段階の教育科目である「リーダーシップ基礎科目群」ならびに必修科目である「人間力基礎」を通して、本学位プログラム所属選抜に臨む学生の素養向上に努めた。
- ② 東工大から15名、一橋大学から若干名を募集定員として所属選抜を平成28年8月11日～13日に実施し、東工大からの志願者17名、一橋大学からの志願者1名から12名の学生を選抜し、第6期生として受け入れた。
- ③ 第1～6期生に対して、4つの道場で道場教育を実施するとともに、道場を超えて学生が切磋琢磨する機会として、スタンフォード大学、モロッコ、ベトナムにおいて道場エクスカージョンを実施した。
- ④ 第1～5期生のうち博士後期課程に進学する学生に対し中間審査を実施し、11名の学生に対して進学許可を与えるとともに、前年度を含め中間審査に合格した学生5名に対してオフキャンパス導入教育・オフキャンパス教育を実施した。
- ⑤ プログラム担当者と学生の指導教員、本学と一橋大学の教員によるFD研修を平成28年12月22日に実施するとともに、これに併せてアドバイザーボードを招集し、本学位プログラムの進捗や今後の発展に関する意見を聴取した。
- ⑥ 東工大からの所属学生に対して、研究支援費・研修支援費・奨励金等の経済的支援を行い、本学位プログラムにおける修練に集中させた。
- ⑦ 所属学生に対して、専門教育と人間力養成の両立支援、キャリア意識の涵養、オフキャンパス教育の派遣先とのマッチング等を行うメンタリングを実施した。
- ⑧ 前年度に実施した修了審査の実績、その際に外部審査委員、アドバイザーボード、外部評価委員から聴取したコメントを踏まえて審査方法を検討するとともに、修了年次に達した学生3名に対して修了審査を実施し、いずれも合格の判定を得た。
- ⑨ 本学位プログラムの効果を把握するため、平成27年度までの修了者とその上司等に対してアンケート形式のフォローアップを実施した。
- ⑩ 修了者の能力養成状況を踏まえて本学位プログラムの進捗と教育効果についての外部評価を受けるため、修了審査に併せて、平成29年2月21日に外部評価委員会を開催し、所属学生・修了者の能力養成状況と教育方法との整合性を確認いただくとともに、今後の発展に向けた意見を聴取した。
- ⑪ 広報活動の推進及び広報資料等を充実させるとともに、オールラウンド型の学位プログラム群がめざす人材養成とその成果の社会的認知を高めることを目的に平成28年9月14日・15日に京都で開催された「第3回オールラウンド型7大学シンポジウム」に参加した。
- ⑫ 修了生のキャリアパスの確保を確実にするため、「博士課程教育リーディングプログラム第2回ビジネス構想コンペティション」を平成29年2月27日に本学4教育院共催で開催した。